



Via Latina 22

2020年3月 288号

総本部よりのお知らせーマリア会

イタリア地区の新しい地区長

最近、総長評議員会はイタリア地区の新地区長の任命に関して会員の意見聴取を行いました。地区の殆どのメンバーから返答が届きました。

2020年1月27日、総長評議員会はローマでの会議の間はこの意見聴取について話し合い、ダヴィデ・ゴツィオ (Davide Gozio) 士を新地区長に任命しました。第一期の3年間は2020年6月29日に始まります。



私たちはダヴィデ士が兄弟的リーダーシップと奉仕への要請を快く引き受けてくれたことに感謝します。

また私たちはダミアノ・トネッロ (Damiano Tonello) 士の地区長としての長年の奉仕に感謝します。彼は管区長として、また初代地区長として奉仕されました。私たちは地区に対する彼の寛大さと献身に深く感謝します。



総長評議員会のコートジボワール従属地区訪問



評議員会メンバーがアビジャンのマリア会修練院訪問

2020年2月9日から26日にかけて、総長評議員会の4名全員はフランス管区従属地区のコートジボワールを訪問しました。評議員会メンバーは冬のローマを離れ暑いアビジャンに着きました。5週間の旅程の最初はアビジャンで、その後、コンゴ特別地区（ブラザビルとキンシャサ）を訪問します。

アビジャンに到着後、従属地区の修道者たちは共同体と活動現場に評議員を迎え入れました。この従属地区はアビジャンの2つの大きな学校：ノートル・ダム・デ・アフリック中学校とサン・ジャン・ボスコ・カトリック中学校、にスタッフを送っています。これらの学校は大司教区がオーナーですが、長年に亘りマリア会によって運営されてきました。それに加え、マリア会はアビジャンにある、「全ての恵みの母なるアフリカの聖母マリア巡礼聖堂」の管理も行っています。ここは、全てのコートジボワールの人々にとって、マリア信心のための广大で美しい中心地であり、また他のアフリカ諸国の人々にとっても魅力的な場所になっています。大司教区は、後に全国司教協議会が引き受けることになるこの巡礼聖堂を建立しましたが、この聖堂はずっとマリア会の管理に任されてきました。この巡礼聖堂に関わる人々は、特に前責任者で現在マリア会総長であるアンドレ・ヨゼフ・フェティス師を感激して迎えました。

また、アビジャン地域には3つの養成所、すなわち①前修練院 ②修練院 ③学生修道院があります。このうち②と③はアフリカの他2つの仏語圏、コンゴとトーゴの行政単位との協働で運営されています。さらにこの修練院のごく近くには、マリア会が所有し運営している黙想と霊性のセンターであるシャミナード村があり、そこはよく知られ利用されています。



評議員会メンバーがアカコモエクロの広大な大農園を視察する

この従属地区の比較的新しい事業で、アビジャンから車で何時間も離れたところにあるのは、アカコモエクロの大農園と宣教活動です。そこは213ヘクタールの広さで、マリア会がチーク、ゴム、そしてヤシの木を栽培しており、それらは将来の宣教活動を支える収入を生み出すと期待されています。現在のところ、これらが成木となるまでの間、会員たちはさまざまなバナナ、トモロコシ、そして他の果物などを収穫したり、販売するために栽培したりしています。3名の修道者からなるこの共同体は、常勤および季節の労働者の助けを借りていますが、彼らのうちの何名かは広大な所有地に建てられた2つのキャンプ施設に住んでいます。また3名の会員たちはこの大農園の周辺にある3つの僻地の村で司牧活動も行っています。現地の人々は、雇用を通して身体の糧を、また宣教活動を通して霊的糧を提供しているマリア会の活動に感謝しています。

コートジボワール従属地区は若い地区で、大きな可能性を秘めています。とはいえ、その置かれた状況と必要性を考えると、継続的發展のためには、同時に多くの課題を抱えています。それでも、ここには励ましと希望への多くの理由があります。コートジボワールの私たちの兄弟たちと彼らの宣教活動のために祈りましょう。



アンドレ・フェティス総長が子供たちとともに

マリア会の尊者DOMINGO LAZARO師への敬意



総長アンドレ・フェティス師が主司式するミサ聖祭
マリア会総本部にて

2月の月間に、総本部とスペイン管区本部は2019年5月13日にドミンゴ・ラザロ師(+1935)を尊者と宣言した列聖省の称号発布の記念式を行うことにしました。

この意向で、2月3日に感謝のミサ聖祭がマリア会総本部 (Via Latina 22) の柱の聖母聖堂にて総長アンドレ・ジョゼフ・フェティス師の司式で執り行われました。アンドレ師はスペインでのカトリック教育にとって大きな政治的、社会的な逆境の時期に若者に示したドミンゴ師の愛の模範を強調しました。ミサ聖祭の前に、マリア会列聖請願総代理アントニオ・ガスコン師が尊者ドミンゴ・ラザロ師の霊的経歴を披露しました。現在ローマ在住のマリア会メンバーと汚れなきマリア修道会のシスターたちがこの行事に参加しました。加えて、信徒マリアニスト共同体メンバーも出席しました。ミサ聖祭が終わって、出席者全員に軽食が供されました。

同様に、新しい尊者の誕生日である2月22日(土)、スペイン管区本部は尊者ドミンゴ師へ敬意を表するためアカデミックで宗教的な行事を企画しました。この式典にマリア会、汚れなきマリア修道会、マリアニスト家族のメンバーたち、そしてスペインのマリアニスト学校のネットワークで集まった先生方や校長たちが参加しました。この式典で次の3名が発表を行いました：マリア会列聖請願総代理アントニオ・ガスコン師、マリア会出版社前社長でスペイン、サンセバスチャンの現マリアニスト中学校校長ハビエル・コルテス師、マリア会前教育局長でスペインカトリック学校連盟の現事務局長ホセ・マリア・アルヴィラ士です。この3名は尊者ドミンゴ・ラザロ師の霊的な人間性について話し合いました。また同時に、スペインとヨーロッパに於けるカトリック学校の現状と将来の展望についての考えを提供しました。その後、尊者ドミンゴ・ラザロの遺骨が眠っている柱の聖母学校の新ゴシック聖堂にてミサ聖祭が行われました。式典は軽食を分かち合うお祝いの集まりで終わりました。この行事は副管区長ミゲル・アンヘル・ディエステ士と中学校校長バレリアノ・サルト士の行き届いた準備のお蔭で無事スムーズに進められ終了しました。



マドリードで行われた催し物で 3人のマリア会員講演者
教育学の元教授で尊者ドミンゴ・ラザロの教育法の専門家
Carmen Labradorさんとともに
(左より): Javier Cortés師、Antonio Gascon師、
José María Alvira士

私たちは、マリア会による最初の学校設立記念を祝うこの2019-2020学年において、私たちの学校の子供と若者、小教区、そして社会文化的発展センターの宣教活動を尊者ドミンゴ・ラザロ師の取り次ぎに委ねます。

お知らせ



悲しいお知らせですが、福者シャミナードの取り次ぎを祈願し、癌から治癒した女性、レイチェル・バウムガートナー・ロザノ (Rachel Baumgartner Lozano) が2020年2月27日死去しました。レイチェルは肺感染症で苦しんでいましたが、この感染症が彼女の大変デリケートな医療状況に大きな負担である深刻な肺炎の状態に変化しました。彼女は家族が見守る中、安らかに息を引き取りました。彼女は数々の医療的苦難を通して彼女が見せた不屈の精神を決して失いませんでした。私たちは彼女の生涯について、また私たちの生活において神

の現存と取次の祈りの力への彼女の偉大な証しを神に感謝します。彼女の逝去を悲しむ人々を慰め、また彼女を天国の愛する主の御前に迎えてくださるよう、主に祈願します。

アリアンス・マリアルでの終生誓願式



Sonia Galarza (エクアドル)、Marie-Laure Jean (フランス)、
Françoise-Romaine Lissana (トーゴ)の終生誓願を受け入れる
Christiane Barboux

教会におけるアリアンス・マリアルの在俗会としての教皇庁の公式承認に伴い、AMの会員は公に終生誓願を宣立出来ることになりました。AMの総長評議員会メンバーが2019年11月にローマVia Latina 22に集まったマリアニスト家族世界評議員会のメンバーの前で終生誓願を宣立したのは、大きな喜びでした。

2020年2月の月間を通して、この喜びは全世界に広がり、他のメンバーたちもそれぞれ誓願を宣立しました。これらの誓願式は先月、次のように6つの異なる日程で行われました。

- * 2月2日：カナダ (1名)、コンゴRDC (2名)
- * 2月8日：トーゴ (5名)、フランス (3名)
- * 2月9日：コートジボワール (13名)
- * 2月16日：エクアドル (1名)
- * 2月20日：チリ (3名)
- * 2月23日：日本 (1名)、コンゴ共和国 (1名)

マリア会はこれらの新たな誓願宣立者にお祝いを申し上げ、そしてマリアニスト家族の中でこの在俗会の発展が継続するよう祈りを約束します。

教皇フランシスの世界的な教育協定への呼びかけ



**GLOBAL COMPACT
ON EDUCATION**

2019年9月12日、教皇フランシスは「世界的な教育協定の再建」を目的とした国際的行動に着手しました。

心に「共通善」を持つ全ての人々、全ての文化と職業の男性、女性に宛てて、教皇は若い世代のために、また彼らと共にコミットすることに再び着手する会議を提案されました。この会議は、“障害者と共に学ぶより開かれた教育、忍耐強く聴くことができる教育、建設的な対話と相互理解がある教育のための情熱を刷新する会議です。成熟した人を育成し、分裂や対立を乗り越え、また、より兄弟的な人類に向けた関係という織物を共に縫い合わせるために、幅広い教育的契約におけるわたしたちの努力を結集することがこれまで以上に必要です” (2019年9月12日のメッセージ)

教皇のこのメッセージは教皇回勅「ラウダート・シ」と2019年2月4日、アブダビで Al-Azhar 尊師と交わした公文書に数回言及しています。この国際会議のために選ばれた日は2020年5月14日で、バチカンのパウロ6世ホールにて開催されます。

世界の多くの地域で開催される会議、セミナー、考察、および行事などが、このバチカンでの会議のための道を準備することになります。これらの集いは、問題の認識を深め、考察を提案し、そして問題と向き合い対話する可能な方法を特定するのに役立ちます。

更に情報を得るに、“世界的な教育協定”のwebsite にアクセスしてください。これはイタリア語と英語のみ可能です。 <https://www.educationglobalcompact.org>

最近の総本部通信

- 2月4日：Charismatic Family, the Marianist Family書簡がマリアニスト家族世界評議会から3か国語で全マリア会員の送付

総本部日程

- 3月8日～15日：全総長評議員会のコンゴ、キンシャサ特別地区(フランス) 訪問
- 3月19日～30日：マリア会財務局長マイケル・マッカワード士、USAでの総本部財務委員会の会議に出席